

ちくま
Q
ブックス



未来のきみを
変える読書術

◆
なぜ本を
読むのか？

苦野一徳

筑摩書房

目次

◆はじめに

007

第1章

読書の効用

013

クモの巣電流流し

..... 013

道具としての知識

..... 018

「勉強の仕方がわかったぞ」(?)

..... 020

境界を突破する

..... 026

読書もまた一つの“経験”

..... 032

言葉をためる、交わし合う

..... 039

ネットじゃダメなの？

..... 043

“構造”をとらえる

..... 051

第2章

読書の方法

市民としての読書

.....
056

「投網漁法」から「一本釣り漁法」へ

.....
063

読書会をやってみよう

.....
069

図書の先生を大いに活用する

.....
071

知識は雪だるま式に増える

.....
074

速読の問題

.....
077

文学との出会い

.....
080

読書を習慣にする

.....
083

「信念補強型の読書」と「信念検証型の読書」

.....
085

063

欲望・関心相関性の原理 091

第3章

レジュメ（読書ノート）の作り方

097

1冊まるまるレジュメを作る 097

レジュメは本を読み終えてから作る 101

電子書籍や電子ペーパーを活用する 108

◆あとがき 115

◆次に読んでほしい本 118

はじめに

「読書は僕たちをグーグルマップにする」

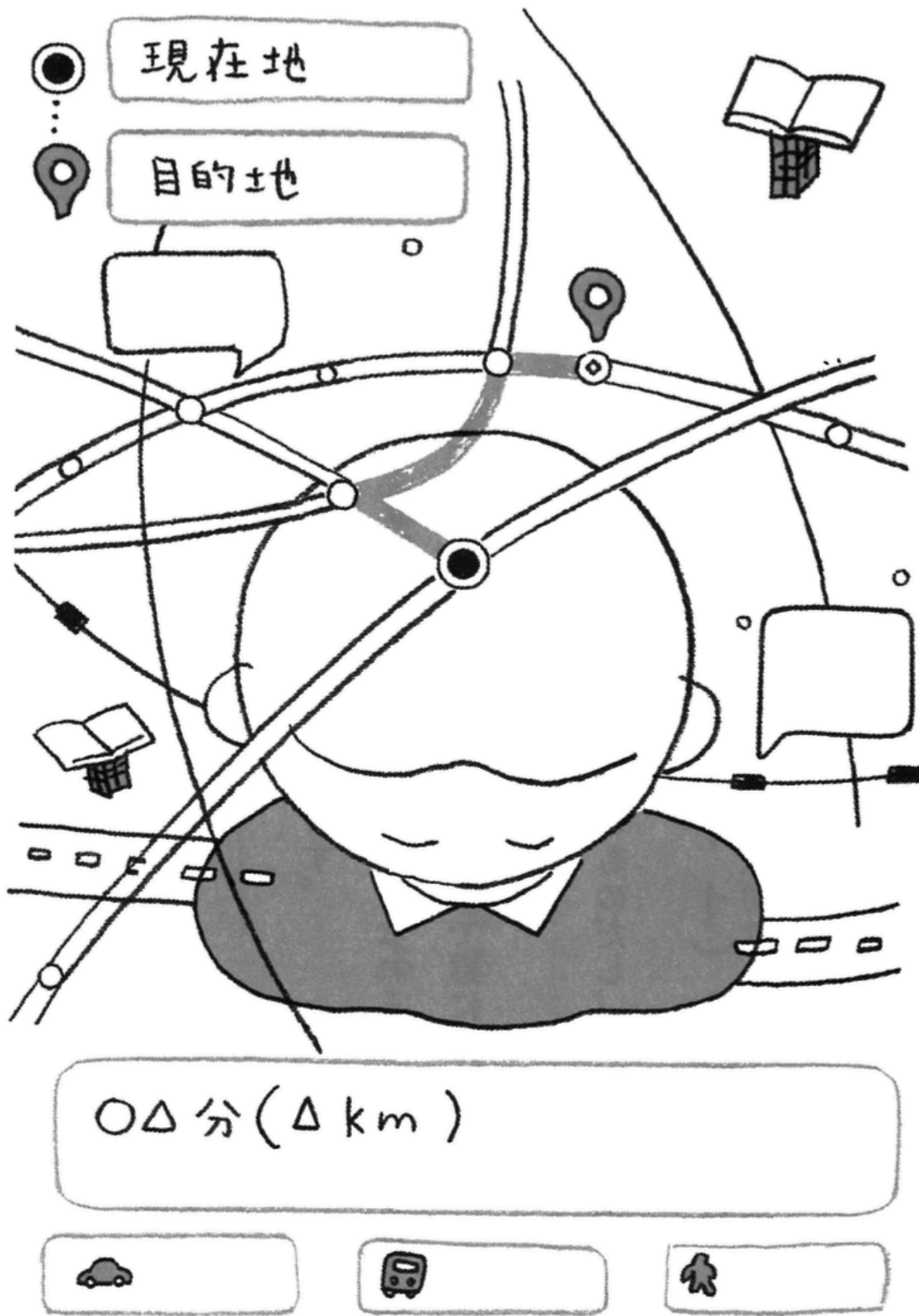
大学で、よくそんなことを学生たちに話しています。

特に若いうちは、自分がいったい何者なのか、何者になれるのか、どう生きたいのか、よくわからないものです。いわば、高層ビル群の中で道に迷って、あっちへ行ったりこっちへ行ったりを繰り返しているような状態です。

もちろん、地図のない旅は、それはそれで楽しいものだし、若い頃の特権でさえあります。

でも、それがずっと続くと、わたしたちはいつか息切れしてしまうものです。

そんな時、だまされたと思って、とにかく大量の読書経験を積んでみてほしい。そう、大学生たちに伝えていきます。そうすれば、ある時突然、自分がグーグルマップに



自分がグーグルマップになる

なって、摩天楼群を真上から見下ろし、入り組んだ迷路の全体像が見えてくるから、と。そして、どの道をどう通っていけば、自分の望む地点に到達できるか、おもしろいくらいに見えてくるから、と。それはあたかも、人工衛星から地球を見下ろす、グーグルマップになったかのような光景のはずです。

あるいはこんな言い方もしています。

同じレントゲン写真でも、わたしたちの見るレントゲン写真と、医師の見るそれとがまったく違っていているように、大量の読書経験を積み、世界の見え方がまるで変わってしまう、と。

「教養を積む」とは、そういうことです。

日本語で「教養」と言うと、実生活には大して役に立たないけれど、知っているとちよつとかつこいいたくさんの知識、というようなイメージがあるかもしれません。

でも、哲学——物事の「本質」を深く考え抜き洞察する学問——の世界では多くの場合、この言葉は、わたしたちがより「自由に生きるための知恵や知識」を意味しま

す。ドイツ語の *Bildung*^{ビルドゥング} が、一般に「教養」と訳される言葉ですが、この言葉には、わたしたちをより自由にしてくれる、精神的、人格的成長をもたらすもの、という意味が込められています。さらに、そのことを通して、この社会もまた、より自由で幸せなものになるように、という意味も。

本書でわたしは、読書によって世界の見え方がまるで変わってしまうとはどういうことか、どうすればグーグルマップになれるのか、お話ししたいと思います。いつもは大学生に語っていることですが、本書を手にとってくれたみなさんであれば、中学生であっても、高校生であっても、（もしかしたら小学生であっても）、きっと興味を持って読んでもらえるだろうと思っています。そして、大いに役立ててもらえるに違いない、と。

「先生、最近、僕、グーグルマップになってきました！」
そんなことを言ってきてくれる大学生が、年に何人かいます。

読者のみなさんの中からも、そんなことを言ってきたりしてくれる若い仲間が現れることを、わたしはとても楽しみにしています。